兵庫・岩井枯木遺跡

1 所在地　兵庫県豊岡市岩井字枯木
2 調査期間　一九九八年（平10）六月～九月
3 発掘機関　豊岡市教育委員会・出土文化財管理センター
4 調査担当者　宮村良雄・谷本由美
5 遺跡の種類　集落跡（祭祀跡）・建物跡
6 遺跡の年代　古墳時代後期、平安時代後期、中世
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は豊岡市の西部、奈佐谷の入口近くに所在し、かつ岩井谷の口に位置している。主尾根から派生した二本の尾根に挟まれた、最大幅四〇mあまりの北側に開く小さな谷に立地する。検出された遺構は、古墳時代後期の溝や自然流路と、古代末から中世にかけてのやや規模の小さい総柱建物群であった。

（城　崎）

古墳時代の遺構は、谷に沿って流れる最大幅三・六mの自然流路と、それに取り付く幅一m程度の溝状の遺構、護岸のための杭列、流路から溝へ水流を引き込むための堰状の杭列があった。出土須恵器の形態からみて、六世紀後半から七世紀前半ごろに所属時期を求めることができよう。

また平安期以降の建物遺構は、少なくとも八棟以上が検出され、二間×三間と三間×三間各二棟が確実である。ほかに二間×二間、二間×三間のものが切り合った関係にある。これらは配置からみて、建て替えがあったのだろう。建物跡の柱間を観察すると、それが一般に比べて小さいこと、総柱建物である点が注目される。ちなみに、建物のひとつは、二間×三間（三・〇四m×三・三一m）を測る。また、柱は四角に製材した材を用いたものが数本認められた。

次に遺物については、古墳時代の遺物では、須恵器・土師器が前述の溝や流路からかなり大量に出ている。また、砥石の出土も目についた。

古代末～中世の建物の時期に併う遺物には、土器・陶器・磁器類としては、須恵器・土師器のほかに、黒色土器・緑釉陶器・白磁・青磁・瓦器などがある。なお、須恵器のなかには墨書土器が若干認められ、そのうちの一つに「神□」と読めるものもある。「□」は「田」があてられそうである。ほかに、「大」と読めそうな例もあった。

木簡は次に示す一点のみ出土した。遺構に伴うものでなく、包含

層からの出土である。建物遺構を検出中に見つかっており、したがって時期的には幅をみて古代末～中世に属すると考えている。

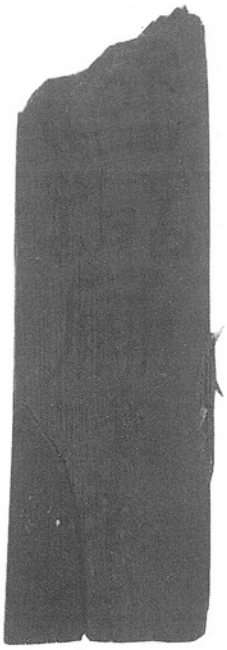
これらの遺構や遺物から、一般の集落の建物というのではなく、持別な目的で作られた臨時的建物と考えることが適当ではないだろうか。具体的には、土地の神を祭る神社のような建物ではないか、と現状では理解している。

8　木簡の釈文・内容

(1)　（符籙）噫々如律令」　(125)×40×6　019

上半を欠き、裏面には記載がない。上部の符籙については、「天原発微」（『正統道蔵』巻八所収）に見える星座「鬼」の図に似ており、その説明として「五星天目也（中略）五穀成」とあることから、五穀豊穣を祈る呪符の可能性がある。

（瀬戸谷晧・宮村良雄）



兵庫・宮内黒田遺跡

1　所在地　兵庫県出石郡出石町宮内字広田
2　調査期間　一九九八年（平10）七月～一〇月
3　発掘機関　出石町教育委員会
4　調査担当者　小寺　誠
5　遺跡の種類　遺物散布地
6　遺跡の年代　弥生時代～近世
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

宮内黒田遺跡は兵庫県北部の出石郡に鎮座する但馬一宮出石神社のすぐ西の位置にあり、弥生時代の遺物散布地として知られていた。また北約八〇〇mには奈良・平安時代の大量の木製祭祀具の出土で知られる袴狭遺跡群があり、ここからは合わせて五〇点以上の木簡が出土し、出石郡衙遺跡と推定されている。（本誌第一一・一三～一七・一九号）

木簡はG区と名付けた南

（出　石）